

## 第2章 地域福祉を取り巻く状況

### 1 今治市の現状

#### (1) 人口・世帯の推移

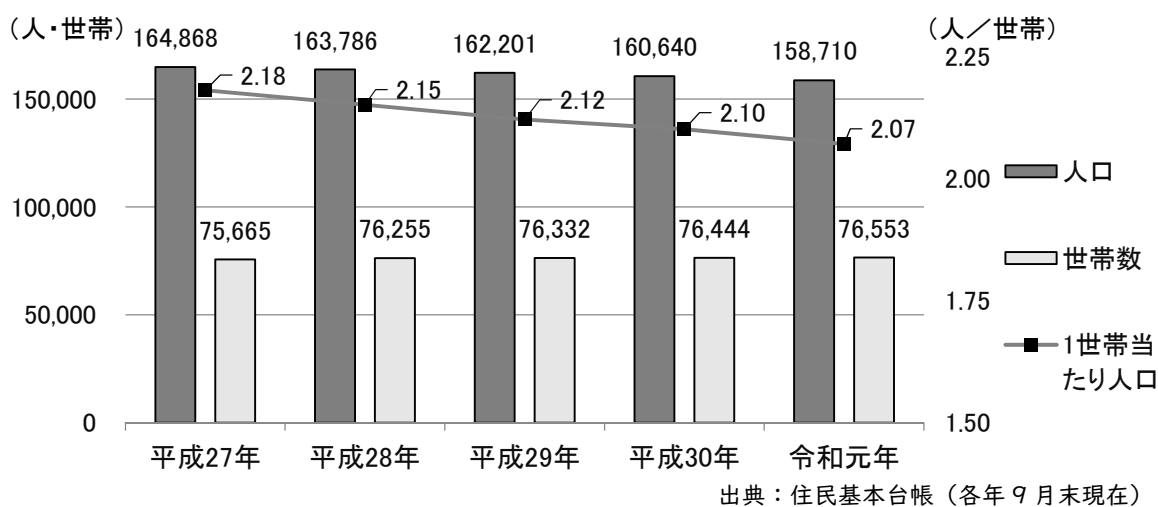
令和元年の人口は 158,710 人であり、平成 27 年から 6,158 人減少し、減少率は 3.7%となっています。

一方、令和元年の世帯数は 76,553 世帯で、平成 27 年から 888 世帯増加し、増加率は 1.2%となっています。

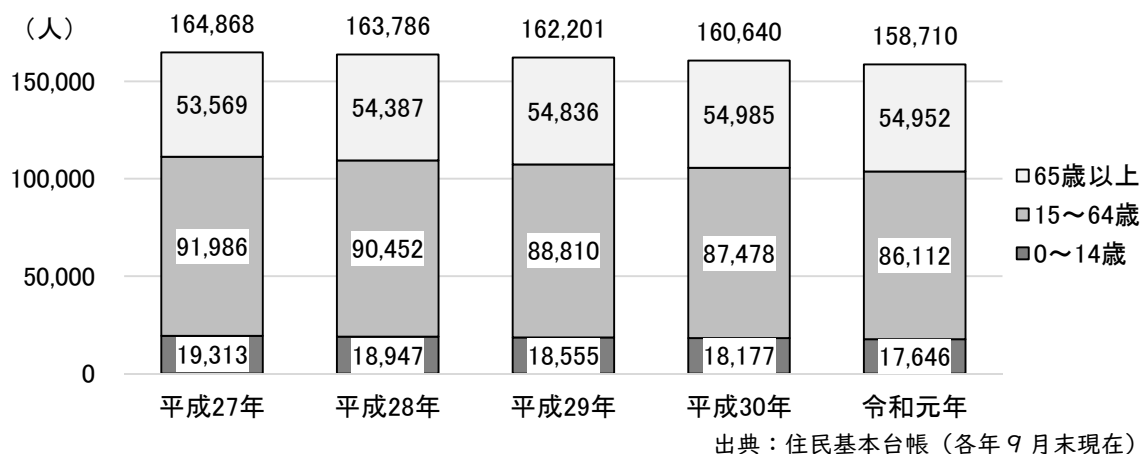
平均世帯人員（1世帯当たり的人员）は減少しており、令和元年は 2.07 人となっています。

人口は減少し世帯数は増加しているため、1世帯当たりの平均人数が少なくなっています。また、生産年齢（15～64歳）人口と年少（0～14歳）人口は減少していますが、高齢（65歳以上）人口は平成30年まで増加しています。

#### 【人口・世帯数・平均世帯人員の推移】



#### 【年齢三区分別推移】



## (2) 地区ごとの人口・世帯の推移

人口・世帯数・平均世帯人員の推移を、旧今治市・旧越智郡陸地部・旧越智郡島しょ部ごとにみると、旧今治市では、令和元年の人口は109,084人であり、平成27年から2,832人減少し、減少率は2.5%となっています。

旧越智郡陸地部では、令和元年の人口は31,648人であり、平成27年から1,302人減少し、減少率は4.0%となっています。

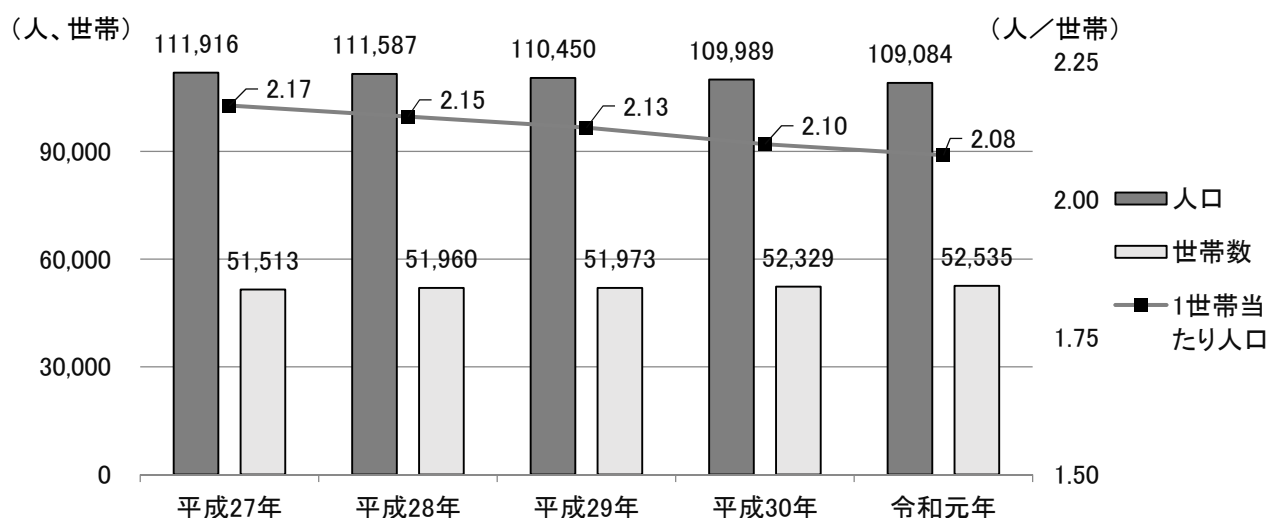
旧越智郡島しょ部では、令和元年の人口は17,978人であり、平成27年から2,024人減少し、減少率は10.1%となっています。

人口減少率は、旧越智郡島しょ部が一番高くなっています。

一方、世帯数の推移は、旧今治市は増加していますが、旧越智郡陸地部では平成29年から、旧越智郡島しょ部では平成27年から減少しています。

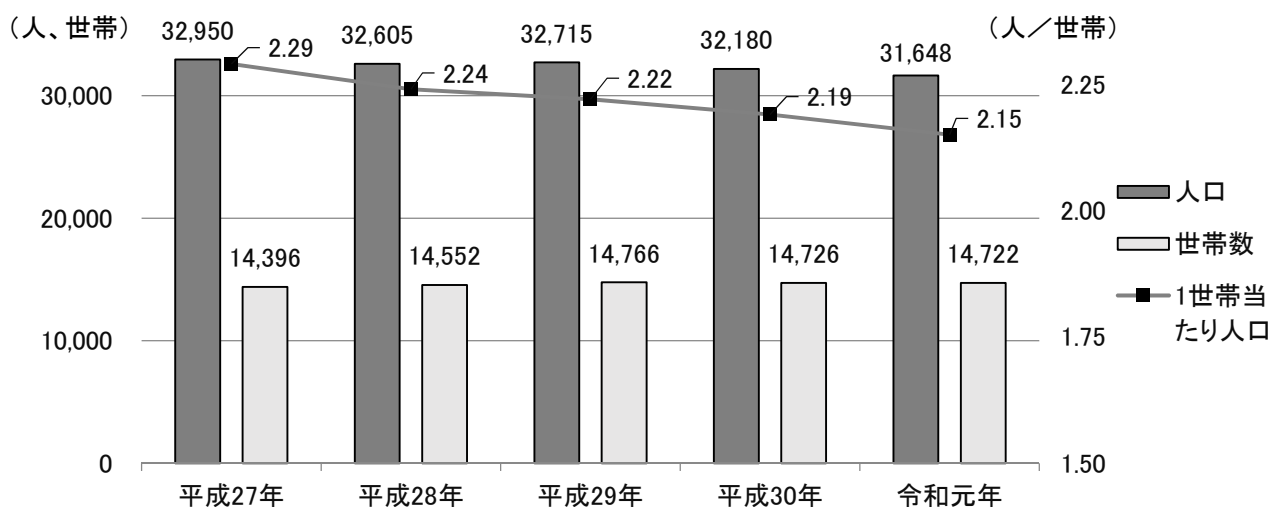
平均世帯人員(1世帯当たりの人員)は減少しており、令和元年では、旧今治市2.08人、旧越智郡陸地部2.15人、旧越智郡島しょ部1.93人であり、旧越智郡島しょ部が、一番世帯人員が少なくなっています。

## 【(旧今治市) 人口・世帯数・平均世帯人員の推移】



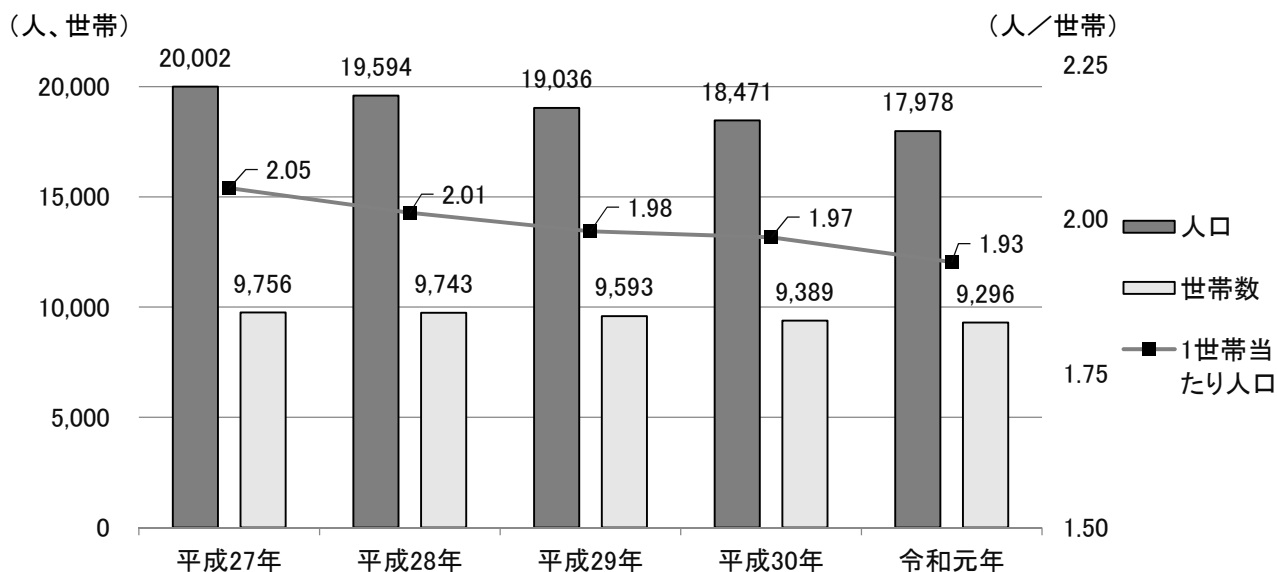
出典：住民基本台帳（各年9月末現在）

【(旧越智郡陸地部) 人口・世帯数・平均世帯人員の推移】



出典：住民基本台帳（各年9月末現在）

【(旧越智郡島しょ部) 人口・世帯数・平均世帯人員の推移】



出典：住民基本台帳（各年9月末現在）

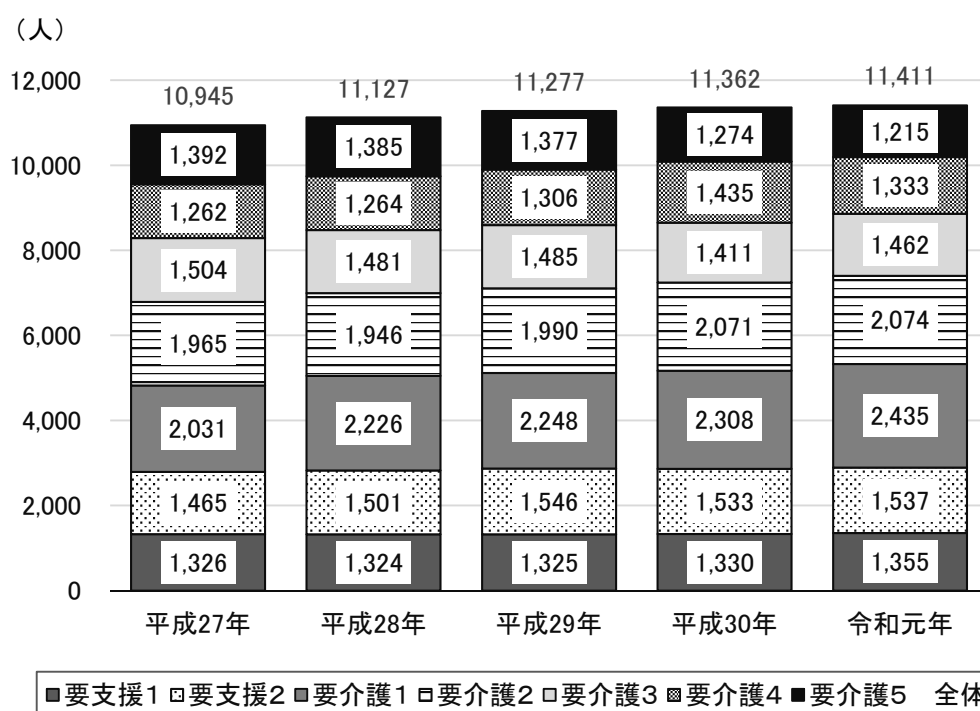
## 2 福祉の現状

### (1) 高齢者

65歳以上の要支援・要介護認定者数の推移をみると、増加傾向にあり、令和元年は11,411人となっています。令和元年の高齢者人口は54,952人ですので、高齢者の20.8%が要支援・要介護認定者となっています。

介護度別では、要介護Ⅰの増加が大きくなっています。

【要支援・要介護認定者数の推移】（第Ⅰ号認定者）



資料：高齢介護課調べ（各年9月末現在）

## (2) 障がい者

障害者手帳所持者の手帳種別ごとの推移をみると、平成27年以降、身体障害者手帳所持者は減少している一方で、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者は増加しています。

## 【身体障害者手帳所持者数の推移】

単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
0～17歳	99	93	85	81	82
18～64歳	1,902	1,793	1,688	1,591	1,558
65歳以上	6,226	6,229	6,135	6,001	5,989
合計	8,227	8,115	7,908	7,673	7,629

資料：障がい福祉課調べ（各年3月末現在）

## 【療育手帳所持者数の推移】

単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
0～17歳	329	336	352	369	377
18～64歳	894	884	893	903	920
65歳以上	116	114	125	129	130
合計	1,339	1,334	1,370	1,401	1,427

資料：障がい福祉課調べ（各年3月末現在）

## 【精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移】

単位：人

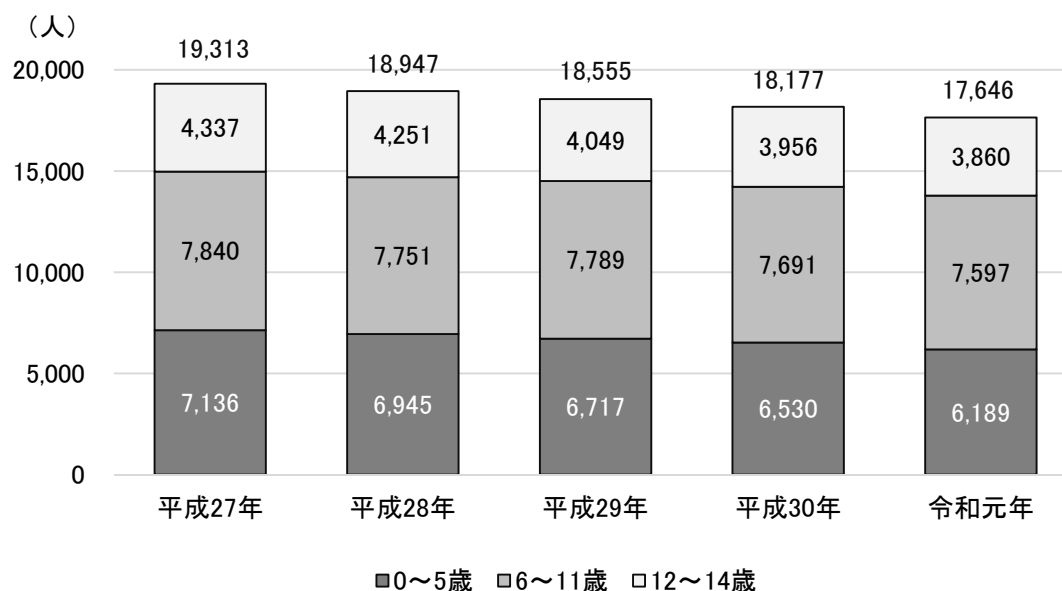
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
0～17歳	3	6	10	17	22
18～64歳	821	856	883	927	1,031
65歳以上	168	205	224	234	245
合計	992	1,067	1,117	1,178	1,298

資料：障がい福祉課調べ（各年3月末現在）

## (3) 子ども

令和元年の年少（0～14歳）人口は17,646人であり、平成27年度から1,667人減少し、減少率は8.6%となっています。

## 【年少人口の推移】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

児童扶養手当の受給者数は、減少傾向にあり、平成27年から平成31年の間で235人減少しています。

## 【児童扶養手当受給者数】

単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
受給者数	1,700	1,656	1,570	1,512	1,465

資料：子育て支援課調べ（各年3月末現在）

## (4) 生活困窮者

生活保護受給者数の推移をみると、被保護世帯数は増加していましたが、平成29年に減少し、その後再び増加傾向にあります。被保護人員数は増減を繰り返しており、平成31年は1,919人となっています。

生活困窮者自立支援制度による自立相談支援事業の利用状況をみると、平成30年までは増加していましたが、平成31年は減少し924人となっています。

生活保護受給者の就労支援の状況をみると、支援対象者は増減を繰り返しており、毎年40人～60人が就労支援を受け、11人～19人が就労しています。

## 【生活保護受給者数の推移】

単位：世帯数、人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
被保護世帯数	1,493	1,510	1,494	1,526	1,545
被保護人員数	1,900	1,908	1,879	1,925	1,919

資料：生活支援課調べ（各年3月末現在）

## 【生活困窮者自立支援制度による自立相談支援事業の利用状況】

単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
相談件数	419	727	737	932	924

資料：生活支援課調べ（各年3月末現在）

## 【生活保護受給者の就労支援の状況】

単位：人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
支援対象者数	46	58	41	53	52
達成者数	11	15	15	14	19

資料：生活支援課調べ（各年3月末現在）

## (5) 社会資源

自治会の加入世帯数、加入率ともに平成27年から減少しています。

## 【自治会の加入世帯・加入率】

単位：世帯、%

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
加入世帯数	58,124	57,537	57,088	56,932	56,339
加入率	76.6	75.5	74.8	74.5	73.7

資料：市民生活課調べ（各年7月1日現在）

地区婦人会数は平成29年に15団体に減少しています。会員数は平成27年から減少傾向にあります

## 【地区婦人会数・会員数】

単位：団体、人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
地区婦人会数	16	16	15	15	15
会員数	1,650	1,633	1,383	1,351	1,116

資料：社会教育課調べ（各年7月1日現在）

老人クラブ数、会員数ともに平成27年から減少しています。

## 【老人クラブ数・会員数】

単位：団体、人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
老人クラブ数	156	152	143	134	130
会員数	11,815	11,748	10,992	10,182	9,798

資料：高齢介護課調べ（各年4月1日現在）

児童クラブ数、在籍児童数ともに平成27年から増加しています。

## 【児童クラブ数・在籍児童数】

単位：団体、人

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
児童クラブ数	27	28	29	31	32
在籍児童数	1,281	1,326	1,411	1,484	1,506

資料：子育て支援課調べ（各年4月1日現在）



民生委員・児童委員相談・支援件数のうち、高齢者に関することは平成27年度から増加していましたが、令和元年度には減少し、6,156件となっています。

障がい者に関することは平成27年度から平成29年度まで増加し、その後減少し、令和元年度には376件に減少しています。

【民生委員・児童委員相談・支援件数】

単位：件

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
高齢者に関すること	6,525	6,700	7,344	8,013	6,156
障がい者に関すること	573	844	951	767	376
子どもに関すること	3,752	3,540	3,240	3,627	3,582
その他	2,168	2,256	2,439	2,204	1,086

資料：福祉政策課調べ

今治市社会福祉協議会のボランティア登録数は、団体は増加しています。個人については令和元年度から毎年度更新制にしたため、減少しています。

【ボランティア登録数】

単位：団体、人

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
団体数	66	69	71	69	84
個人数	244	256	273	266	68

※令和元年度から毎年度更新制にしたため、登録数が減少。

資料：社会福祉協議会調べ（各年度3月末現在）

自主防災組織の組織数は、平成27年以降増加しています。

（自主防災組織率＝組織されている地区の世帯数／市内世帯数）

【自主防災組織結成数】

単位：団体、%

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
組織数	473	483	500	510	520
組織率	71.1	71.1	71.9	72.0	72.4

資料：防災危機管理課調べ（各年10月1日現在）

## (6) 虐待

DV相談の件数は、平成27年度から増加しています。

高齢者虐待は、平成27年度から平成29年度まで増加し、その後減少しています。

障がい者虐待は、増減を繰り返しています。

児童虐待は、平成28年度に減少していますが、その後増加傾向にあります。

## 【DV：ドメスティックバイオレンス等に関する相談件数の推移】

単位：件

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
DV相談	411	432	543	566	674
高齢者虐待	214	267	427	233	182
障がい者虐待	80	19	56	96	26
児童虐待	143	124	128	154	172

資料：子育て支援課、高齢介護課調べ（各年度3月末現在）

## (7) 成年後見制度

成年後見制度の相談件数は、障がい者・高齢者ともに増減を繰り返しています。

## 【(障がい者) 成年後見制度「市長申し立て」件数の推移】

単位：件

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
相談件数	80	19	56	95	26
市長申し立て件数	0	1	1	2	1
助成件数	0	0	0	0	0

資料：障がい福祉課調べ（各年度3月末現在）

## 【(高齢者) 成年後見制度「市長申し立て」件数の推移】

単位：件

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
相談件数	57	63	64	44	38
市長申し立て件数	5	2	3	2	2
助成件数	3	1	2	1	0

資料：高齢介護課調べ（各年度3月末現在）

## 【成年後見無料相談件数の推移】

単位：件

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
相談件数	117	125	49	45	38

資料：社会福祉協議会調べ（各年度3月末現在）

### 3 アンケート調査からみる今治市の現状

#### (1) アンケート調査の概要

##### 【市民アンケート】

- ・調査期間：令和元年12月～令和2年1月
- ・調査対象者：18歳以上の市内在住者（無作為抽出）
- ・標本数：3,000人
- ・配布方法：郵送

調査対象者	調査対象者数 (標本数)	回収数	有効回収率
市民アンケート	3,000	1,316	43.9%

##### 【団体・事業所アンケート】

- ・調査期間：令和元年12月～令和2年1月
- ・調査対象者：市内の福祉関連団体及び事業所
- ・標本数：300団体
- ・配布方法：郵送

調査対象者	調査対象者数 (標本数)	回収数	有効回収率
団体・事業所アンケート	300	218	72.7%

## (2) 市民アンケート調査結果の概要

### 1 居住及び日常生活について

アンケートに回答された人の8割が、今治市に30年以上暮らし続けています。今後の居住意向も7割の人が今治市で住み続けたいと答えています。

住み暮らし続けたい理由は、7割の人が自分の土地や家があることを挙げていますが、「福祉や医療のサービス」、「子育て環境」、「文化・スポーツ環境」の面を住み続けたい理由に選んだ人は3%以下で、前回（平成26年）のアンケート調査でも、この分野は、少数意見となっています。住み続けたくない理由では、買い物や交通の便が悪いことが挙げられており、旧越智郡陸地部と旧越智郡島しょ部では7割の人が不便と答えています。生活環境の質の向上が課題となります。

日常生活の面で、5割以上の方が不安に感じていることに、「自分や家族の介護」、「災害時の避難支援」、「健康状態」、「経済的な状況」が挙げられています。地域で差がみられるのが、日常の買い物や通院などの外出面で、旧今治市では、4割の人が現在の困りごとや将来を不安に感じる事としていますが、旧越智郡の陸地部では6割、島しょ部で7割の人が現在の困りごとや将来を不安に感じる事としています。

### 2 福祉について

アンケートに回答された人の7割以上が、福祉にある程度関心を持っています。福祉への理解を深めるためには、5割以上の方が「福祉の制度、サービス、理念や考え方を学習する」機会を持つことを挙げています。

### 3 地域や隣人とのかかわりについて

地域や隣人との日頃の付き合いは、あいさつ程度と答える人が多いですが75歳以上の方の28.9%や旧越智郡島しょ部の26.7%の人は、いろいろな事を話し合う関係を持っています。

近所の人に望む手助けは、「安否確認の声かけ」、「災害時の避難支援」が挙げられています。手助けできることでも同じことが挙げられています。逆に家事の手伝いや子どもの預かりなどはあまり望んでいません。

#### 4 ボランティア活動について

ボランティア活動への興味・関心を持っている人と持っていない人の割合はほぼ半数で、同程度となっています。ボランティア活動への参加の経験は、年に数回あるかないかのごく僅かで、「地域の清掃、美化、地域おこし」への参加が7割を占めています。高齢者や障がい者で配慮を要する方への支援及び子育て支援への参加は少ない状況です。ボランティア活動への参加の機会を増やすことや配慮を要する人への支援活動を増やすことが課題となります。

#### 5 福祉サービスについて

福祉サービスの充実度については、ある程度充実している（「充実している」と「どちらかと言えば充実している」の合計）と答えており、平成26年度調査から4.5ポイント増加しています。充実していない分野は、「高齢者に対する福祉」で6割を超える方が答えています。福祉サービスの利用促進にはサービスの情報提供と利用を支援する窓口が求められています。

住民が自ら取り組む支え合いは、5割以上の方が「近隣住民と日常的な対話や交流を広げる」ことを挙げています。しかし、8割の方があいさつ程度の近所との付き合いであることから、住民同士の交流や近所づきあいの希薄さを解消する取組が課題となります。

#### 6 社会問題について

社会問題への意識は、生活保護を受けている方への偏見や差別を取り除くこととホームレスの問題は6割の方が重要と思い、地域の防犯対策、災害時の支援体制、高齢者・児童・障がい者等の虐待を防ぐ地域のつながりの3つの分野では、7割以上の方が重要と考える分野となっています。

### (3) 団体アンケート調査結果の概要

#### 1 活動分野について

団体・事業所の活動分野は、「高齢者支援」、「障がい者支援」、「子育て支援・母子福祉」が上位回答になっており、平成26年度調査においても同じ順位でした。これらの活動分野の担い手は、「高齢者支援」は、「自治会等地域団体」と「民生委員・児童委員」、「障がい者支援」は、「NPO法人」と「民生委員・児童委員」、「子育て支援・母子福祉」は、「民生委員・児童委員」が活動の主な担い手となっています。

また、「民生委員・児童委員」は、「虐待・ひきこもり・不登校対策」分野においても活動の主な担い手となっています。

#### 2 団体等の支援及びサービスの質について

団体等の支援及びサービスの質について「満足している」と回答された方は、全体の70%を超え、団体の区分ごとの回答でも50%を超えており、各団体での自己評価は高くなっています。サービスの質の確保・向上に必要な取組は、職員の研修により、質の確保・向上に取り組んでいるが、人材の確保の難しさ、職員等の高齢化、研修や勉強会への参加者が少ないなどの課題がみられます。

また、多職種連携、介護と医療の連携、行政との協働などの連携を図ることで、情報を共有し、見守り活動を充実させるなど、地域住民との連携や地域との繋がりが諸問題の早期対応に繋がる取組として意見が挙げられています。

#### 3 地域で福祉活動を推進するための取組について

回答をした68.8%の団体・事業者は、地域住民と交流しており、交流を行っている団体の種別としては自治会等地域団体91.1%、民生委員・児童委員88.4%が高い割合となっています。

地域住民の行事に67.0%の団体・事業所が参加している状況です。

地域の抱えている課題やニーズの把握は、63.7%の団体が把握しており、自治会等地域団体、民生委員・児童委員、医療機関が高い割合となっています。

各団体が行っている地域福祉活動は、関係機関との連携・情報共有、高齢者等への見守りや声かけが多く、住民の相談窓口や地域の情報発信は低調となっています。

今後、地域での福祉活動を活性化させるための取組として、隣近所の住民同士の普段からの付き合いが挙げられており、市民アンケート結果でもあいさつ程度の近所づきあいの現状であることから、地域の繋がりをつくる取組が重要となります。

(4) 地区別座談会の結果の概要

地区別座談会にて「5年前の地域課題の現状」と「新たな地域課題」を確認した結果は、以下に示すとおりです。

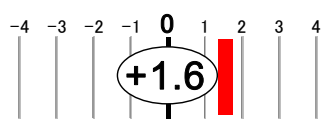
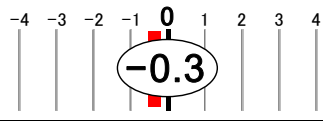
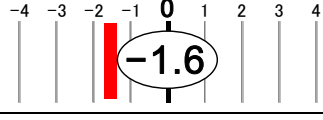
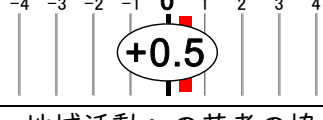
1 朝倉地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
災害対策・体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の意識が高まり、自助・共助の重要性が認知されてきた。</li> <li>・高齢者も避難の心構えができています。</li> </ul>
近所付き合いの希薄化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の情報はよくわかる。</li> <li>・独居高齢者については、民生委員の見守り訪問が徹底してきた。</li> </ul>
少子高齢化による担い手不足		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業後継者不足。</li> <li>・地域に働く場がない。</li> <li>・リーダーがいなくなると活動は衰退。</li> </ul>
買い物や通院時の交通問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・車に乗れない人の交通手段がない。</li> <li>・デマンドバスを要望しているが、実現は遠い。</li> </ul>
新たな地域課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若い世代と接する機会が減っている。</li> <li>・老老介護世帯が増加している。</li> <li>・耕作放棄地が増えている。</li> </ul>

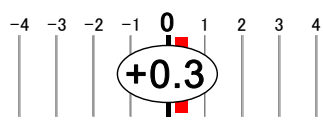
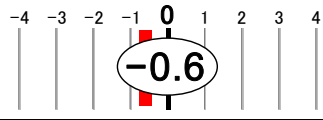
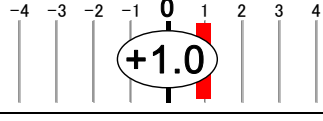
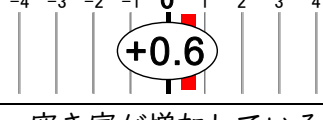
2 玉川地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
近所付き合いの希薄化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔から住んでいる人は、今も付き合いが続いているが空き家が多くなった。</li> </ul>
団体などの維持が困難		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の人がいろいろな役を担っている。</li> <li>・自治会役員の交代時、次に当たりそうな人は会を休んでしまう。</li> </ul>
高齢者への対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方の課題が増加している。</li> <li>・高齢者同士で支えあう必要がある。</li> <li>・避難場所が遠いのはおかしい。</li> </ul>
少子化と子どもへの対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通が不便で仕事がないため、若い人は出て行く。</li> <li>・龍岡は、少ないが子どもが帰ってくる。</li> </ul>
新たな地域課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関わり方について、世代間で考えに差異がある。</li> <li>・老老介護世帯が増加している。</li> <li>・農業後継者不足で、田畑が荒れている。空き家も増加している。</li> </ul>

## 3 波方地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
買い物や 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・なみっこ交流館で野菜販売、週1回とくし丸（移動スーパー）とパン屋が来る。</li> <li>・バス路線で波方回りができた。</li> </ul>
地域の孤立や 閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が閉じこもっている。</li> <li>・高齢化により外に出ない人が増えている。（身内の交流はある）</li> </ul>
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人の協力がなくて、参加してもらう方法を考える必要がある。</li> <li>・老人クラブがなくなった。（森上・養老）</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年前と比べると自主防災組織は増えている。具体的取組が必要である。</li> <li>・関心や取組は広がった。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動への若者の協力が少なく、リーダーや担い手が不足している。高齢化、若者の減少、無関心により、自治会運営が大変になる。</li> <li>・若い人のひきこもりが目立ってきている。</li> <li>・空き家や耕作放棄地が増加し、治安が悪くなっている。</li> </ul>	

## 4 大西地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
通院や買い物など 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているが、買い物に関しては移動販売車が来ている。</li> <li>・コンビニがなくなって不便になった。</li> </ul>
地域活動の固定化や 近所付き合いの 希薄化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化で作業などに参加できない人や独居老人が増えてきた。</li> <li>・一人暮らしの男性の自治会脱退。</li> </ul>
子育て支援の 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪い和いの利用者が増えている。</li> <li>・各家庭がボランティア組織を知らない。</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防が声をかけてくれる。防災キャンプやマップがよくできている。（宮脇）</li> <li>・防災士を増やし意識向上を図っている。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が増加している。</li> <li>・老老介護世帯が増加している。</li> <li>・土地の放置が目立ち、管理が問題になっている。</li> </ul>	



## 5 菊間地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
病院や買い物の 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー会社がなくなった。</li> <li>・専門店など店舗が少なくなった。</li> <li>・外出支援のバスが通行している。</li> </ul>
地域の孤立や 閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じこもりがちの人も、デイに喜んでいくようになった。</li> <li>・昼間にお年寄の姿を見ることがない。</li> </ul>
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会青年部は激減している。</li> <li>・消防団員の定員割れが深刻である。</li> <li>・草刈りなど地域環境が少しずつ悪化。</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨災害で防災意識は高まった。</li> <li>・山道が古くなって崩れやすいところが多い。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の閉じこもりが増加している。（80歳以上）</li> <li>・高齢化が進み、地域のリーダーになる人がいない。</li> <li>・田畑などの管理ができていない。</li> </ul>	

## 6 吉海地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
地域行事、サロン、 イベントなどの 後継者問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の意識が希薄で心配。</li> <li>・世話人も高齢化して、高齢者も施設入所などで減少している。</li> </ul>
地域の孤立や 閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が増加し、サロンやイベントへの参加者が減少している。</li> <li>・閉じこもり状態に近い人が増加。</li> </ul>
高齢者と若者の 交流が少ない		<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が行事に関心。土・日に出かけてしまう。祭りは人が多いが、他に交流の機会がない。</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々災害時の支援もできるようになり体制は向上している。</li> <li>・消防団に所属する若者は近所にいない。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が増えて、近所付き合いが疎遠になってきている。</li> <li>・免許返納者への対応が少なく、特に買い物が不便になっている。</li> <li>・老老介護世帯が増加している。</li> </ul>	

## 7 宮窪地区

課題	現状（5年前との比較）		理由
	←悪くなっている	良くなっている→	
買い物や 移動手段の問題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店がなくなった。</li> <li>・高齢化が進み、車に乗れない人や運転が危なくなった人が増えた。</li> </ul>
地域のつながりの 希薄化の問題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が増え、近所が遠くなった。</li> <li>・Iターンの人がいる。</li> <li>・外国人が住んでいて交流を図っている。</li> </ul>
地域の 担い手不足による 地域活動への影響			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が減ってきている。</li> <li>・I・Uターンの人が積極的に参加している。</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災研修を毎年行っており、自助・共助のことは少しずつ分かってきている。</li> <li>・集会所に名簿を備えている。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりが減って、孤立や閉じこもりの問題が出てきている。</li> <li>・空き家の老朽化や放置。（雑草、壊れて危険、火災などが心配）</li> <li>・高齢化に伴い、地域活動（特に清掃活動）が難しくなってきた。</li> </ul>		

## 8 伯方地区

課題	現状（5年前との比較）		理由
	←悪くなっている	良くなっている→	
地域の孤立や 閉じこもり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が増え、5年前より住民が減少している。</li> <li>・出てこれない人もいる。（身体の問題）</li> </ul>
地域の 担い手不足による 地域活動への影響			<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの活動や月一清掃がなくなった。</li> <li>・組長の順番がすぐ来て、若い人の負担が多くなってきている。</li> </ul>
災害への不安、 体制づくり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波、浸水への不安が大きい。テトラポッド防波堤など災害への対策が不十分。</li> <li>・緊急性の判断が今ひとつ。</li> </ul>
買い物や 移動手段の問題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋を利用した場合、交通費がかさむ。</li> <li>・買い物弱者が増えている。</li> <li>・バスがない。タクシーも1台。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手が不足しており、地域活動が縮小している。</li> <li>・介護タクシーがあればよい。高齢者を普通の車に乗せるのは大変。</li> <li>・移動手段の問題がある。橋代も高く、時間もかかるため、市内の病院へ行くのにも身内に頼みづらい。</li> </ul>		

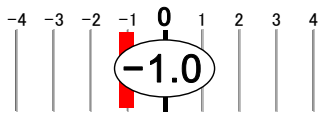
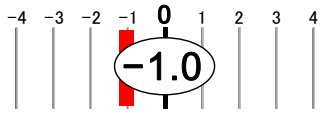
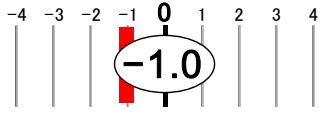
### 9 上浦地区

課題	現状（5年前との比較）		理由
	←悪くなっている	良くなっている→	
買い物や移動手段、交通の問題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗がなくなってきている。移動販売もあるが、そこに行くまでが大変。</li> <li>・公共交通が少なくなっている。</li> </ul>
高齢者の孤立や閉じこもり、高齢化			<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人の閉じこもりがある。</li> <li>・老老介護、認認介護が増えている。</li> <li>・民生活動は孤立防止につながっている。</li> </ul>
地域の担い手不足による地域活動への影響			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が担い手として頑張っている。</li> <li>・人数が減っても、組の統合は難しい。</li> <li>・獅子の担い手が減り、維持が難しい。</li> </ul>
災害への不安、体制づくり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の伝達方法を検討する必要がある。</li> <li>・実際に災害が起こった時、どこを助けるか決めている。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足による地域活動への影響。</li> <li>・地域のつながりの希薄化。</li> <li>・高齢者の孤立や閉じこもり。</li> </ul>		

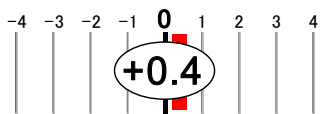
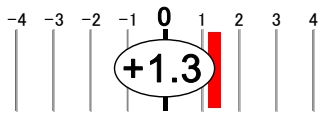
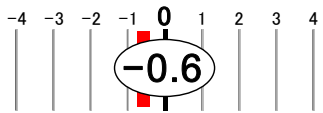
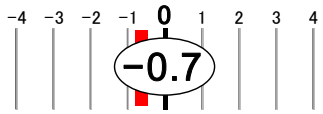
### 10 大三島地区

課題	現状（5年前との比較）		理由
	←悪くなっている	良くなっている→	
買い物やゴミ出し等の移動手段の問題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉タクシーがあり助かっている。</li> <li>・宮浦には店舗があるが、他の地区にはない。配達してくれる店舗もある。</li> </ul>
若者の減少・一人暮らしの高齢者の増加			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしは増えている。</li> <li>・子どもが島外に出ると、親も一緒に出ることもある。</li> </ul>
地域の担い手不足による地域活動への影響			<ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人会を脱退する支部が多くなった。</li> <li>・高齢化で清掃などが十分にできない。</li> <li>・地域間の横のつながりが薄い。</li> </ul>
災害への不安、体制づくり			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難時の役割（見回り、連絡体制等）を決めたことで、安心につながった。</li> <li>・災害時、支える側の高齢化が問題。</li> </ul>
新たな地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足により、既存の助け合いの仕組みを引き継ぐ人がいない。</li> <li>・老老介護世帯が増加している。</li> <li>・耕作放棄地が拡大している。</li> </ul>		

## 11 関前地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
近所の寄り合いが少ない、コミュニティの弱体化、世話人不足		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯数の減少により、家同士の距離ができた。</li> <li>・趣味の会では、コミュニケーションが取れている。</li> </ul>
人口減少と高齢化で地域活動ができない		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊や大学生のサポートがある。</li> <li>・祭りの担い手がいない。</li> </ul>
高齢化や人口減少の中、地域でどう助け合っていくのか不安		<ul style="list-style-type: none"> <li>・合力（こうろく）の意識が続いている。</li> <li>・支え合う意識が高まってきている。</li> <li>・頼り合える関係がある。</li> </ul>
新たな地域課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足により、多世代交流の場が減少したり、若い世代への誘致ができていない。</li> <li>・要配慮者及び避難行動要支援者に関する情報が更新できていない。</li> <li>・耕作放棄地の管理。</li> </ul>

## 12 今治地区

課題	現状（5年前との比較） ←悪くなっている 良くなっている→	理由
地域での認知症高齢者・子どもの安全		<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方は社協の支援や施設、独居の見守りなど連携体制も整っている。</li> <li>・子ども見守り隊の高齢化や交代が問題。</li> </ul>
災害時の避難、初期対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者の登録・更新ができており、共助・公助の面で良くなっている。</li> <li>・マップづくりを通して初動を知った。</li> </ul>
地域の絆の希薄化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対応の中で、お互いの結びつきの必要性を感じ始めている人もいる。</li> <li>・プライバシーの事には踏み込みにくい。</li> </ul>
多様化する個別課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別課題に関わる人が縦割り、見守る体制が取りづらい。</li> <li>・個人情報保護もあり実情が分からない。</li> </ul>
新たな地域課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会・老人会等の地域活動や、ボランティア団体などの担い手・後継者がいない。</li> <li>・閉じこもりやひきこもり、心身に不調のある人との関係づくりやサポートが難しい。</li> <li>・交通の便が悪い。</li> </ul>